

日本クリスチャン・ペンクラブ(JCP) 発行



文は信なり

60周年記念準備号

責任者 池田勇人 事務局:〒131-0043 東京都墨田区立花 4-6-13 三浦喜代子方
 TEL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838 HP:http://jcp.daa.jp

信望愛に裏打ちされて

池田勇人

言葉には冷たさ温かさ、不思議な温度があります。「コラ、手ぬぐいを湯船に付ける奴があるか。トラホームになったらどうする！」青年が振り向くと、風呂に入ってきたのは賀川豊彦…。叱られて嬉しくなるエピソードです。

「日本の外来は忙しい。三分診療と言われ、言葉で生活指導する余裕がない。：『投与』という言葉がすごい。薬を投げ与える。言葉でなくて薬で、てっとり早く解決しようとしている。邪道だ」(鎌田實『言葉で治療する』朝日新聞出版) 医療者の何気ない言葉に傷ついてきた私は、牧会者である私も同様なことをしているのではないかと、迫られています。

今私は三つ目の病院で、言葉の温みを感じさせてくれる名医に出会いました。前の病院での治療が末期であることを伝えると、「どこが末期ですか？自分の足で歩いてこられる人が、なぜ末期なのですか」と、反問されてしまいました。目からウロコが落ちた一瞬でした。主なる神は主治医を通して、再度癒しの約束を下されたのです。

++++

信望愛に裏打ちされた言葉 あかし文が、心痛み悩める人たちに、最も必要な薬であることを、創立六十周年記念大会で確認できれば、と祈っています。

六十周年を迎える喜び

三浦喜代子

ちょうど二十年前の創立四十周年は、キリスト品川教会の礼拝堂で記念の式典が行われました。メイン講師は加藤常昭先生でした。講演の中で先生は、もともと聖書は朗読されてきたものである、聴衆は朗読される神のことがばからいのちと愛を受け取ってきた、そこには、人の呼吸や血液の流れに合った心地よいリズムがあつたと、語られました。

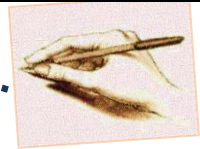
終わり近くに、先生は「あなたの文章は朗読に耐えるか」と二段声調高く、切り込んでくるように言われたのです。「朗読に耐えうるって？」私は聞き慣れない言葉に戸惑いながらも、引きずり込まれるような魅力を感じて、体いっぱい受け止めました。

ペンクラブに名を連ねて五年、一年に一度四〇〇字を書くだけでしたが、文章作法、文章表現に悩み始めていたときでした。

その時以来「あなたの文章は朗読に耐えるか」は、私の体内に宿り続け、性能の良い時計の秒針のようには消えない発信音を放ち続けています。ペンを握っているとき、ふとこの音が聞こえてきます。はっと身を正して、文章を読み返してみます。

「あなたの文章は朗読に耐えるか」は、「文は信なり」とともに私の文章道を照らすともしびであり、鏡です。こうして二五年、ペンクラブ一色で歩んだ私の「あかし文章」街道は今、六十周年の祭りでにぎやかです。

偶数月に開いている小さな集い・若い会員も少しずつ増え、 回を重ねるごとに・楽しい雰囲気醸されて…



詩歌の会

西山純子

昨年度は「詩で綴る自分史」を課題とし、
①少年少女時代②青春時代③壮年期④未
来への四編を順に作品にしました。

今年度は「自由詩」を、二〇字二〇行以内
で証を基点におき、率直な詩作をしています。
毎回のプログラムは

- ・資料を用いての駒田兄による詩の学び
- ・自作詩朗読・合評・講評・添削など
- ・原則として偶数月第三金曜日

・会場はお茶の水クリスタル・センター三
〇七室・時間は午後一時三〇～三時三〇分
です。参加者全員が、この時を楽しみに、信仰
の友、詩の友として学び育み合い、
成長していることが感謝です。

童話エッセイ小説を書こう

榎 尚子

いろいろな文章を書いてみたいと願ってい
た私達は、「小さな集い」として、児童文学の
会を立ち上げました。その後、書きたいもの
が次々に広がり、今では童話、小説、エッセ
イに取り組んでいます。

まず、書くテーマを決めます。次の回まで
に各自が作品を仕上げてきます。次回十月の
テーマは『山』です。どのように書きすすめ

ていくか、苦しみと楽しみの日が続きます。
書いた作品はメールで参加者に送られます。
創作は長いものが多く、十五枚ぐらいでしよ
うか。エッセイは五枚ぐらい。それぞれプリ
ントして例会に持ち寄ります。時に五十枚と
いう大作を書いた方は、ご自分でコピーして
送ってくださいました。

いよいよ合評会です。作品を読んで出席し
ますから、すぐに感想や批評を始めます。会
を重ねるうちに、厳しい批評にも慣れ、作品
を読む力も付いてきたように思います。

どの作品にも何かコメントする、これが私
達の会です。書きっぱなししておくこと自分
の独りよがりになるからです。人数が多い場
合は二つのグループに分かれて合評します。

創作もエッセイも求められるのは「キリス
トの香り」です。表現するの一番心を砕く
のはこのことです。どのように隠し味にする
か、挑戦が続きます。的確な言葉、構成、そ
して余韻……。

みんなを取り組む楽しさも味わっています。
ぜひご参加下さい。



六十周年を迎えて

運営委員一同よりご挨拶申し上げます。

- ★この恵みの時に委員として奉仕できることを感謝します。福音の輪がますます祝福の広がりを
持つて、力強く前進出来ますように(石垣亮二)。
- ★六十周年の準備に関わらせていただいたことが喜びです。三時間かかるお茶の水までの行程
が、近いと感じるようになりました(島田裕子)。
- ★敬愛する兄弟姉妹方と共に、この喜ばしき六
十周年の準備に携わらせていただいたことを心
から感謝しています(山本披露武)。
- ★委員が心一つに、力を合わせて迎える六十周
年。会員の書く意欲も年々増し、ペンで証しする
力が漲っており、感謝なことです(長谷川和子)。
- ★六十周年のこの時、ここに置いていただいている
恵みに感謝があふれます。灯火が、大きな光とな
り照らせるものとなりますように(西山純子)。
- ★五十周年から十年たちました。五年前は介護
の真っ盛り、今、JCPにかかわることが出来る恵
みを感謝しています(榎 尚子)。
- ★六十年前の私は高校生。JCPは八年目。大先
輩の跡を継ぎ、キリスト教信仰を証し伝え、発信
し続けて行く大切さを覚えます(島本耀子)。
- ★I.Tと編集経験豊かな新メンバーも与えられ、
『文は信なり』はリニューアルして再開です。これ
も六十周年の大きな恵み。感謝(三浦喜代子)。